

巻頭言に代えて

---



ビジネスモデル学会では、21世紀のビジネスモデルや社会革新の実態を、現地に行って調査・体感するコンベンションを実施しています。

昨年は深セン市と広州市を訪れ、現地の政府機関、有力企業やスタートアップを訪ねて、中国のデジタル革命の最前線に触れてきました。それはメディアやネ

ットで発信されている数多のレポートでは伝わることのないデジタル革命の実相を体感することであり、変わりゆく世界の確信を得る旅でした。

さて、北欧の小国エストニアは覇権主義的な中国のデジタル革命とは対照的に、小国としてのニッチを IT に求めて、国を挙げて先進的なデジタル国家 e-Estonia の樹立を目指しています。そこでは政府サービスの多くがデジタル化され、国民の利便性の向上と行政コストの削減を極限まで追求しようとしています。そのバックボーンとなる技術もクラウド上の管理からブロックチェーンへの移行を図っており、仮想通貨に留まらないブロックチェーンのインパクトをいち早く具現化しようとしています。また、e-Residence という電子国民制を導入し、起業家を中心に世界から人材を引き付けようとしているのです。

小国ゆえに大胆な国家デジタル化に突き進むエストニアの現地に行き政府を訪ね、起業家と交流し、人々の暮らしに触れることは、ブロックチェーンをコアテクノロジーとして成立する未来社会を一足先に体感することであり、その可能性と限界、魅力と問題をダイレクトに理解することに他なりません。

---

平野 正雄  
ビジネスモデル学会会長  
早稲田大学ビジネススクール教授



注記: 本稿は『「今すぐそこにある未来」を体感する …IT 実験国家エストニア視察へのお誘い』(平野学会長、2019 年 BMA 海外コンベンションのお誘い in エストニア)を転載したものです。